

# 2022年3月期第2四半期 決算説明会

2021年11月

# 目次

---

1. 2022年3月期第2四半期決算実績	P. 2
2. 2022年3月期業績予想	P.14
3. 中期経営計画の進捗状況	P.24
Appendix. 会社概要・当社の特長	P.32

# 1. 2022年3月期第2四半期決算実績

# 1-1. 決算概要

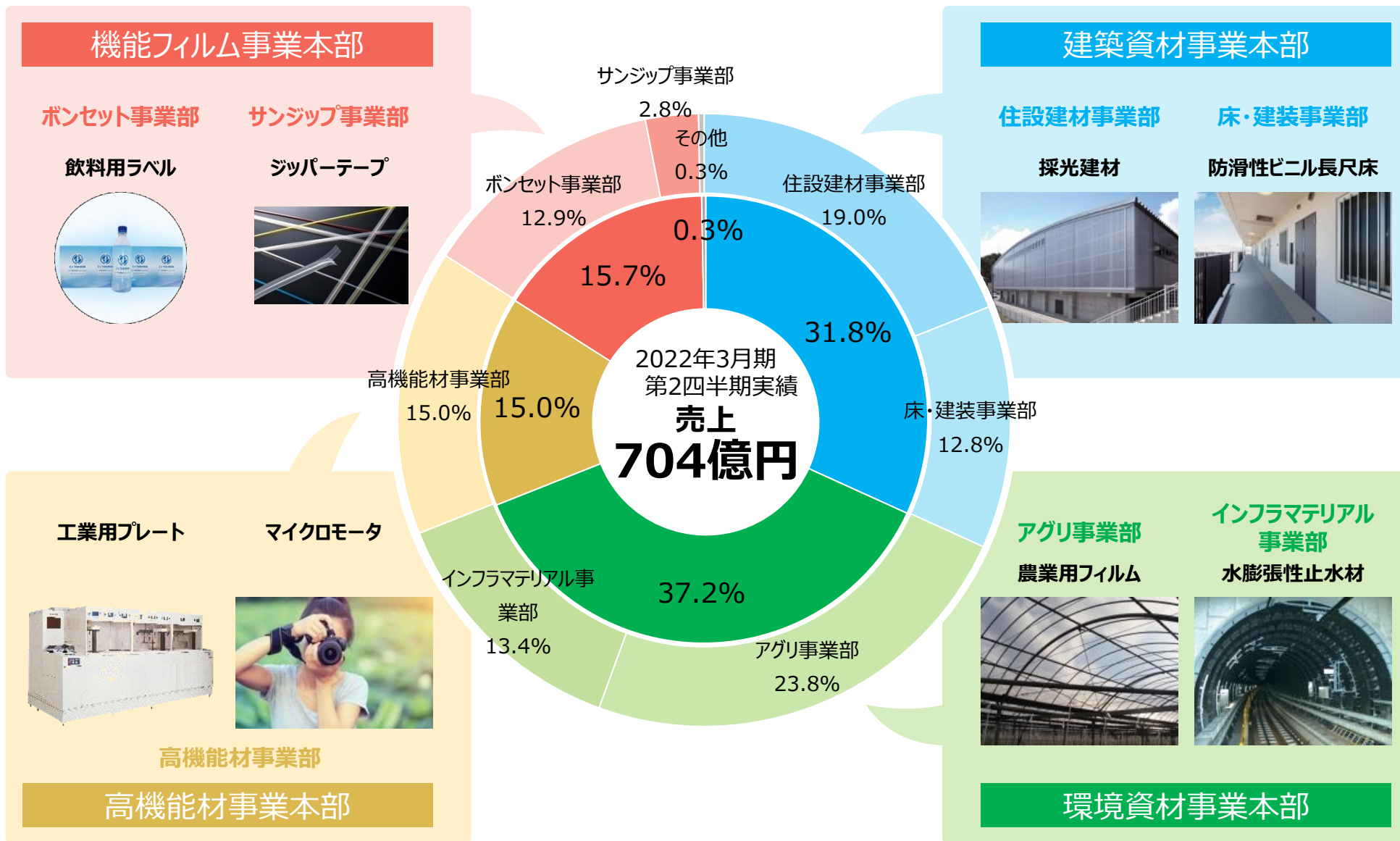
## 営業利益は第2四半期過去最高を更新

(単位：百万円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期第2四半期			
	金額	金額	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	70,738	64,175	70,417	100.0	6,241	9.7
売上総利益	19,454	18,627	20,423	29.0	1,795	9.6
販売費及び一般管理費	15,816	14,952	15,630	22.2	677	4.5
営業利益	3,638	3,675	4,792	6.8	1,117	30.4
経常利益	3,716	3,783	4,998	7.1	1,215	32.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,350	2,086	3,480	4.9	1,393	66.8
海外売上高	11,187	10,810	13,106	18.6	2,295	21.2
1株当たり四半期純利益	24.14円	21.43円	35.76円	-	14.33円	66.9
設備投資額	5,061	3,010	2,314	-	△695	△23.1
減価償却費	2,149	2,586	2,552	-	△34	△1.3

### 2022年3月期第2四半期ハイライト

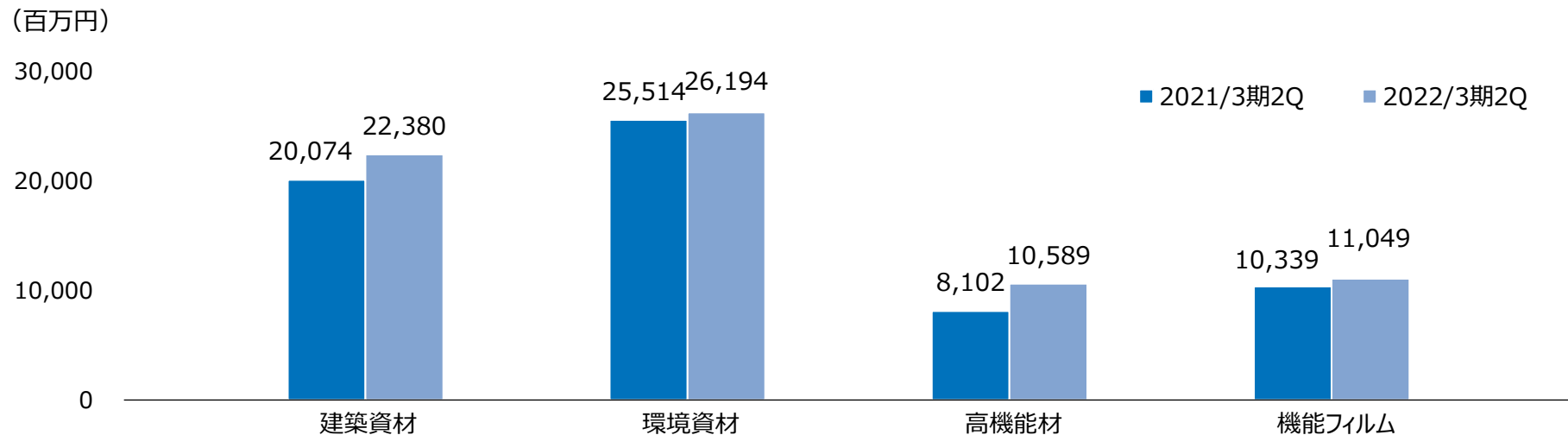
- 売上高は、昨年度のコロナ影響からの復調、原材料及び物流費の高騰による製品値上げ前の駆け込み需要等により前期比9.7%の増収
- 営業利益は、原材料及び物流費高騰の影響を受けるも、値上げ前の駆け込み需要による増収や高機能材セグメントにおける半導体装置向け製品が牽引し前期比30.4%の増益。第2四半期としては過去最高を更新
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期は投資有価証券の評価減363百万円の影響があったが、当期については投資有価証券の売却益と、固定資産売却益により計144百万円の増益要因もあり、前期比66.8%の増益

# 1-2. セグメント別売上高構成比

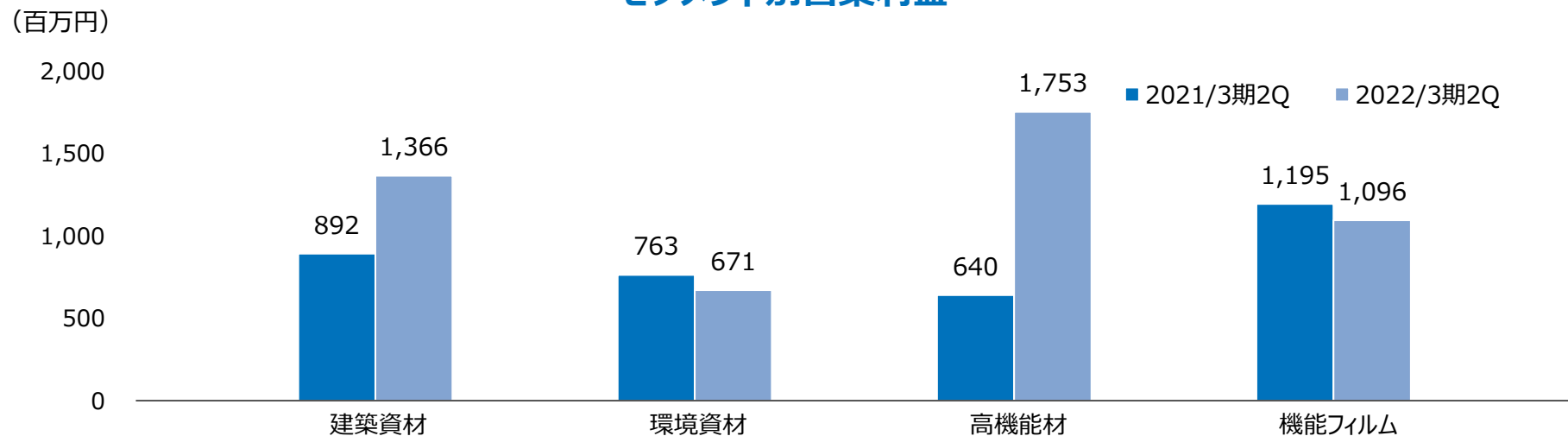


# セグメント別概況













## セグメント別売上高



## セグメント別営業利益



## 主要関連動向

セグメント	関連指標	19FY→20FY	20FY→21FY	2021FY概況
建築資材 セグメント	新設住宅着工戸数			コロナ影響により落ち込むも一定程度回復
	分譲マンション改修工事			コロナ影響により延期されていた案件の発注により好調
環境資材 セグメント	農業資材の需要			コロナ影響により落ち込むも一定程度回復
	土木公共工事状況			当社関連案件については、工事の中断、延期により不調
高機能材 セグメント	半導体需要			世界的に半導体需要が旺盛であり、半導体製造設備の需要も比例して好調
機能フィルム セグメント	ペットボトル消費動向			19FY→20FYは欧米を中心にコロナ影響による巣ごもり需要があったが、安定した需要が継続

※関連指標および概況につきましては、当社の取引先様からのヒアリング等を参考にし当社にて判断したものであり、公的データを元にしたものではありません。

# 1-3. 2022年3月期第2四半期決算実績

## セグメント別概況（建築資材事業セグメント）：進捗

### 建築資材事業セグメント（住設建材事業・床・建装事業）

- 住設建材事業は、ホームセンター向けの販売において前年の巣籠り需要の反動がありましたが、新設住宅着工戸数の回復と原材料及び物流費の高騰による製品値上げ前の駆け込み需要により増収
- 床・建装事業は、床部門において、コロナ禍の影響により延期されていた物件の受注増により増収。建装部門においても、国内の建築物件向けはコロナ禍の影響から回復途上であり、海外市場における回復が進んだため、前年同期と比較して伸長し事業全体として大幅な増収

(単位：百万円、%)

(事業)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期第2四半期					期首 年度計画	期首年度計画進捗
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計				
	実績	実績	実績	実績	対前年			

#### 売上

建築資材事業計	20,074	11,935	10,444	22,380	2,305 (+11.5%)	44,000	50.9%
住設建材事業	13,148	7,048	6,317	13,365	217 (+1.7%)	27,200	49.1%
床・建装事業	6,925	4,887	4,127	9,014	2,088 (+30.2%)	16,800	53.7%

#### 営業利益

建築資材事業計	892 (4.4%)	1,039 (8.7%)	327 (3.1%)	1,366 (6.1%)	474 (+53.2%)	2,470 (5.6%)	55.3%
住設建材事業	805 (6.1%)	422 (6.0%)	199 (3.2%)	621 (4.7%)	△183 (△22.8%)	1,370 (5.0%)	45.3%
床・建装事業	86 (1.3%)	616 (12.6%)	128 (3.1%)	744 (8.3%)	658 (+758.9%)	1,100 (6.5%)	67.6%



# 1-3. 2022年3月期第2四半期決算実績

## セグメント別概況（環境資材事業セグメント）：進捗

### 環境資材事業セグメント（アグリ事業・インフラマテリアル事業）

- アグリ事業は、コロナ禍での先行き不安感からの買い控えが続いてきた更新需要も回復基調の上に、前年から続く大型物件の受注に加え、製品値上げ前の駆け込み需要があったことで増収
- インフラマテリアル事業は、更生管事業や災害復興需要、ハウエル管の大型物件への販売など堅調な推移があったものの、大型工事物件の計画変更や長期停止、7月および8月の豪雨災害などの影響が大きく、全体的に低調となり減収

（単位：百万円、%）

（事業）	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期第2四半期					期首 年度計画	期首年度計画進捗
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計				
	実績	実績	実績	実績	対前年			

#### 売上

環境資材事業計	25,514	12,864	13,329	26,194	679 (+2.7%)	56,500	46.4%
アグリ事業	15,540	8,442	8,310	16,752	1,211 (+7.8%)	34,300	48.8%
インフラマテリアル 事業	9,974	4,421	5,019	9,441	△532 (△5.3%)	22,200	42.5%

#### 営業利益

環境資材事業計	763 (3.0%)	320 (2.5%)	351 (2.6%)	671 (2.6%)	△91 (△12.0%)	2,040 (3.6%)	32.9%
アグリ事業	262 (1.7%)	165 (2.0%)	248 (3.0%)	414 (2.5%)	151 (57.8%)	820 (2.4%)	50.5%
インフラマテリアル 事業	501 (5.0%)	154 (3.5%)	102 (2.0%)	257 (2.7%)	△243 (△48.6%)	1,220 (5.5%)	21.1%

## セグメント別概況（高機能材事業セグメント）：進捗

## 高機能材事業セグメント

- 高機能材事業は、半導体市場の成長による半導体製造装置メーカーの好業績を背景に、装置向けの工業用プレート、エンブラ材の販売が引き続き高い水準を維持。半導体パッケージ基板用部材向けのナノ材料販売も伸長。世界的に新型コロナワクチン接種が進み、先進国を中心とした活動規制の段階的な緩和から消費活動の改善もみられ、眼鏡フレーム用アセテート板の販売が増加。民生用機器向けを中心にマイクロモータの販売も堅調に推移

(単位：百万円、%)

(事業)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期第2四半期					期首 年度計画	期首年度計画進捗
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計				
	実績	実績	実績	実績	対前年			
売上								
高機能材事業計	8,102	5,507	5,081	10,589	+2,487 (+30.7%)	18,000	58.8%	
営業利益								
高機能材事業計	640 (7.9%)	1,019 (18.5%)	734 (14.5%)	1,753 (16.6%)	+1,113 (+173.9%)	1,670 (9.3%)	105.0%	

# 1-3. 2022年3月期第2四半期決算実績

## セグメント別概況（機能フィルム事業セグメント）：進捗

### 機能フィルム事業セグメント（ボンセット事業、サンジップ事業）

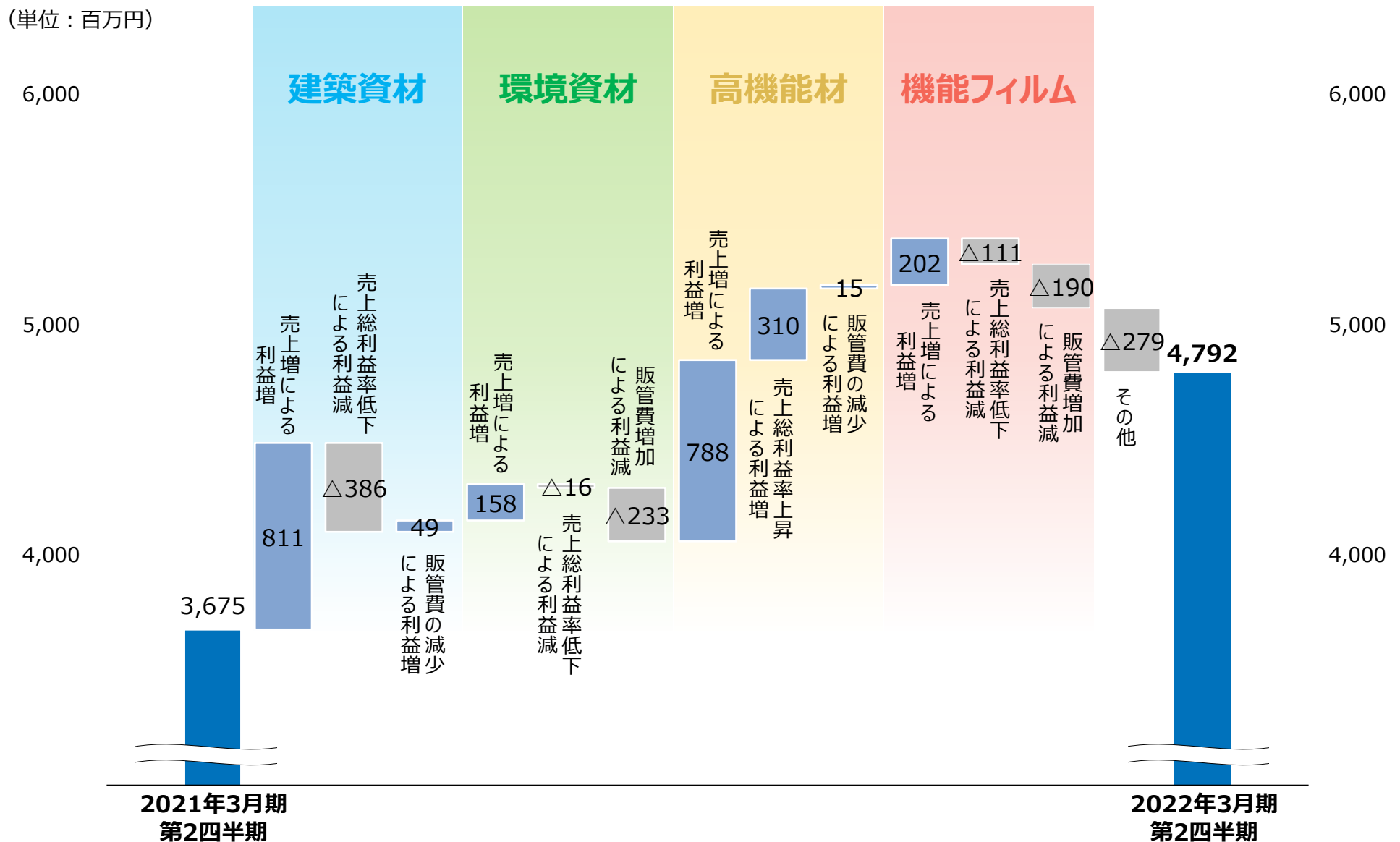
- ボンセット事業は、シュリンクフィルムが国内販売及び欧米市場において堅調に推移
- サンジップ事業は、ジッパーテープが日本国内、アジア、欧州を中心に食品、ペットフード及びアパレル関係で好調に推移し増収

(単位：百万円、%)

(事業)	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期第2四半期					期首 年度計画	期首年度計画進捗
	2Q計	第1Q	第2Q	2Q計				
	実績	実績	実績	実績	対前年			
売上								
機能フィルム事業計	10,339	5,440	5,608	11,049	710 (+6.9%)	21,000	52.6%	
ボンセット事業	8,587	4,452	4,631	9,084	497 (+5.8%)	17,100	53.1%	
サンジップ事業	1,752	988	977	1,965	213 (12.2%)	3,900	50.4%	
営業利益								
機能フィルム事業計	1,195 (11.6%)	685 (12.6%)	411 (7.3%)	1,096 (9.9%)	△98 (△8.3%)	1,750 (8.3%)	62.6%	
ボンセット事業	937 (10.9%)	572 (12.9%)	308 (6.7%)	880 (9.7%)	△56 (△6.0%)	1,360 (8.0%)	64.7%	
サンジップ事業	258 (14.8%)	113 (11.4%)	103 (10.6%)	216 (11.0%)	△42 (△16.3%)	390 (10.0%)	55.4%	

# 営業利益増減要因分析

(単位：百万円)

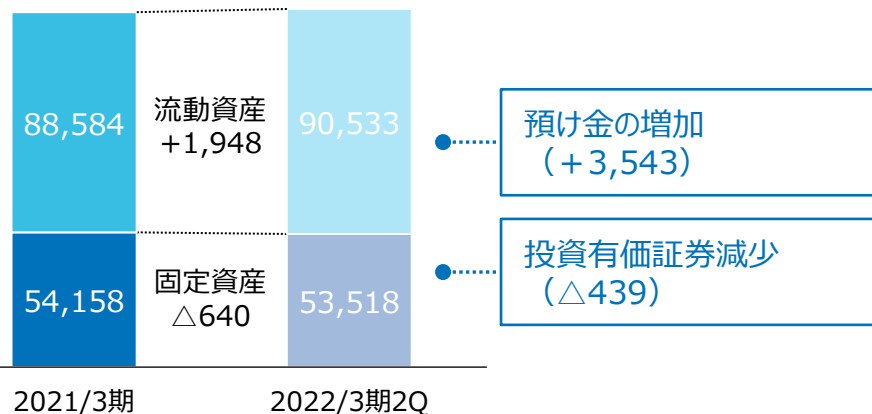


# 1-3. 2022年3月期第2四半期決算実績

## 貸借対照表

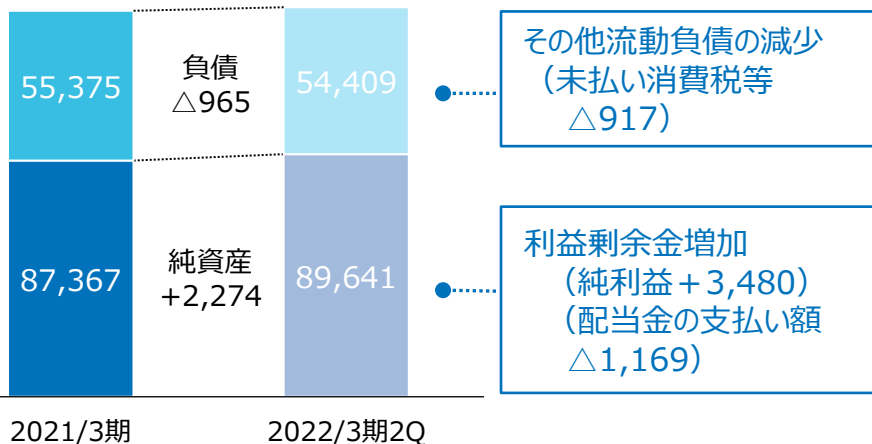
### 資産

(単位：百万円)



### 負債／純資産

(単位：百万円)



(単位：百万円)

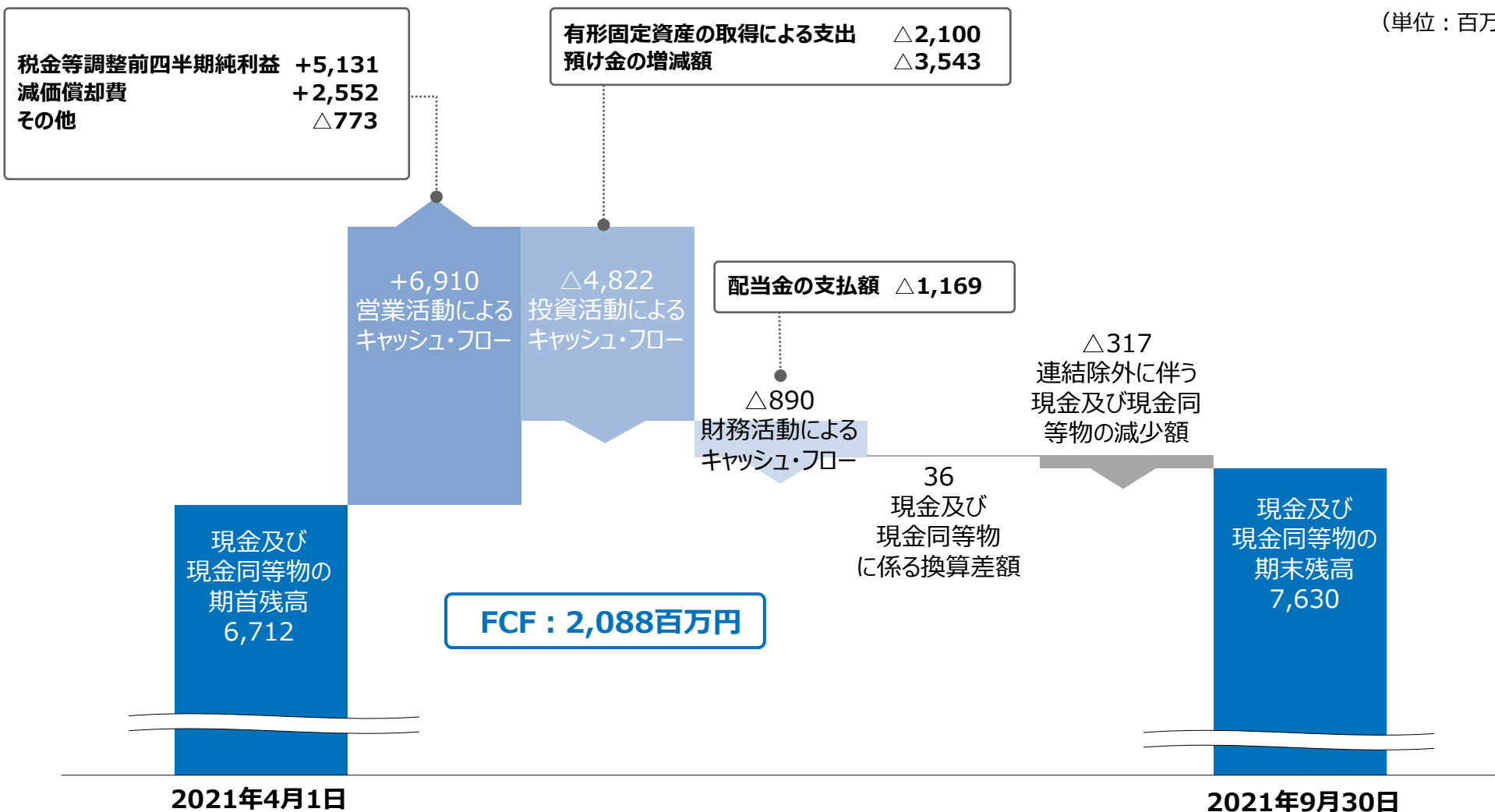
	2021年 3月期	2022年 3月期2Q	増減額
<b>流動資産</b>	88,584	90,533	1,948
現金及び預金	6,712	7,630	917
売上債権	46,185	44,650	△1,534
たな卸資産	22,832	23,351	519
その他	12,853	14,900	2,046
<b>固定資産</b>	54,158	53,518	△640
有形固定資産	41,947	41,971	24
無形固定資産	2,661	2,497	△163
投資その他の資産	9,550	9,049	△501
<b>資産合計</b>	<b>142,743</b>	<b>144,051</b>	<b>1,308</b>
<b>負債合計</b>	55,375	54,409	△965
(有利子負債残高)	4,438	4,816	377
<b>純資産合計</b>	<b>87,367</b>	<b>89,641</b>	<b>2,274</b>
			(単位：%)
<b>自己資本比率</b>	60.0	61.1	1.1

# 1-3. 2022年3月期第2四半期決算実績

## 連結キャッシュフロー計算書

- フリー・キャッシュフローは2021年3月期2Qの4,187百万円から2,099百万円減の2,088百万円

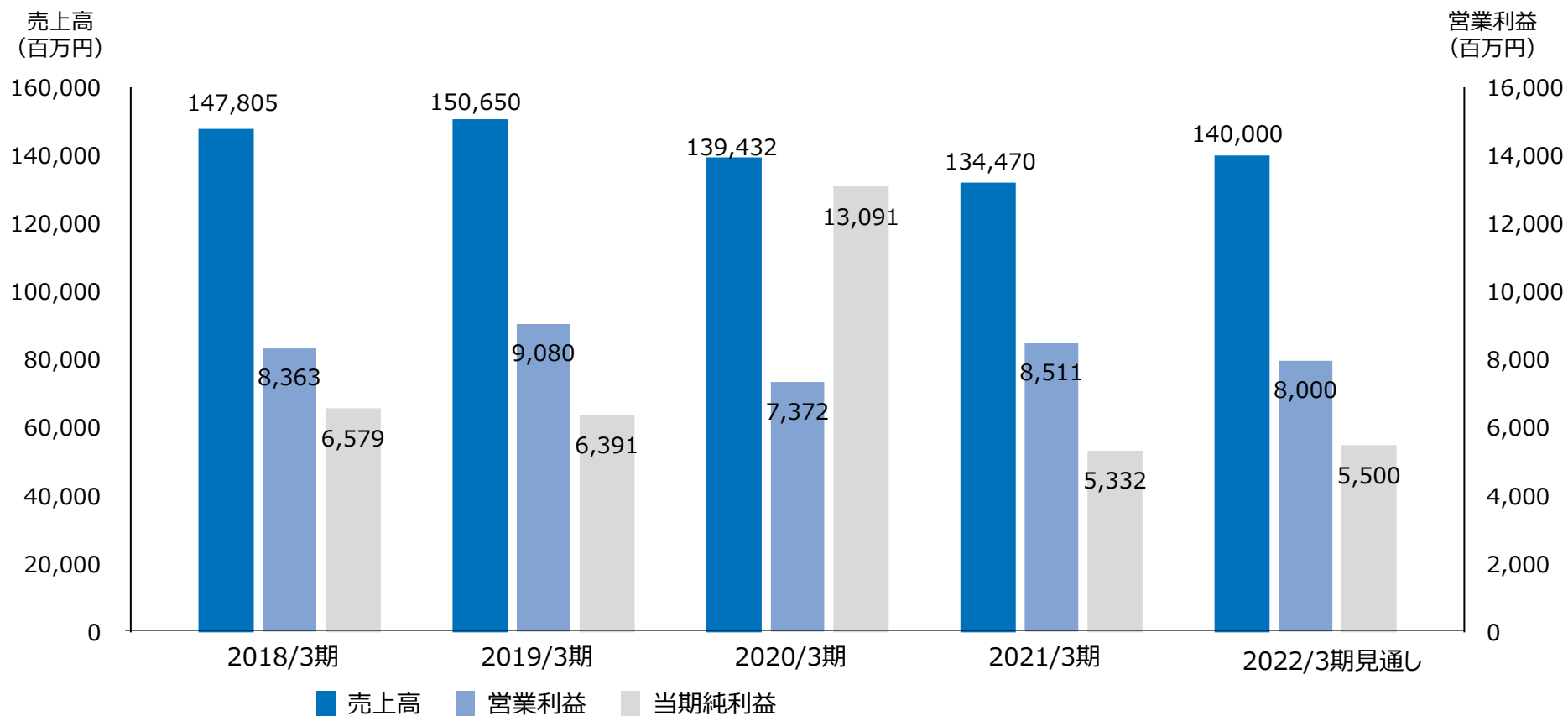
(単位：百万円)



## 2. 2022年3月期業績予想

## 2. 2022年3月期業績予想

# 売上高・利益・各種指標推移（実績および見通し）



	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期見通し
営業利益率	5.7%	6.0%	5.3%	6.3%	5.7%
ROA	5.7%	4.6%	9.2%	3.7%	3.8%
ROE	9.6%	8.8%	17.0%	6.4%	6.3%



## 2. 2022年3月期業績予想

# 損益計算書（P/L）（連結）

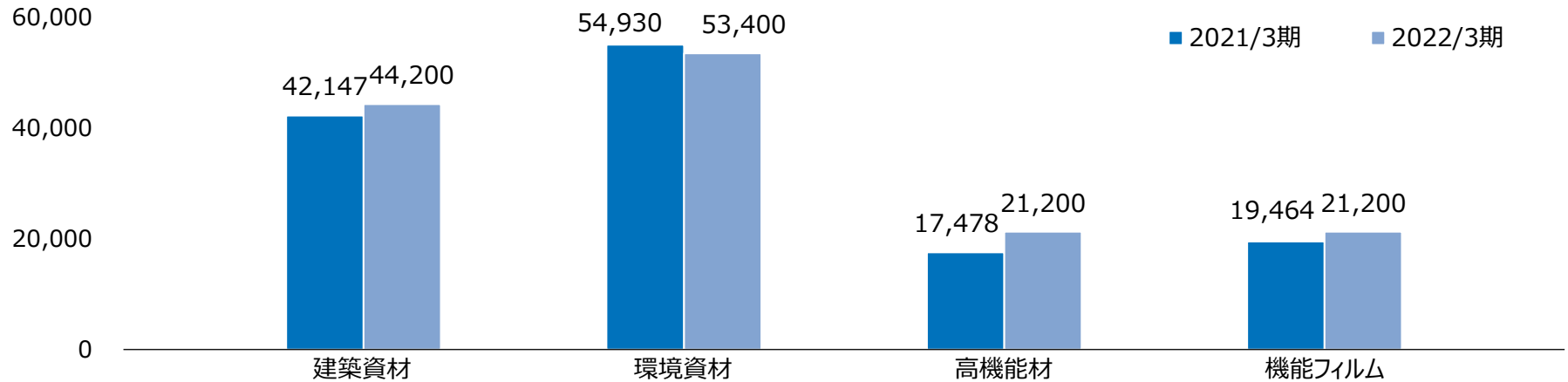
- 建築資材事業、高機能材事業を中心に売上が増加するも、原材料高の影響を受け粗利率の低下および販管費の上昇を見込み営業利益では減益見通し

	実績		予想			
	2021年3月期（累計）		2022年3月期（累計）			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	134,470	100.0	140,000	100.0	5,529	4.1
売上総利益	39,013	29.0	40,000	28.6	986	2.5
販売費及び一般管理費	30,502	22.7	32,000	22.9	1,497	4.9
営業利益	8,511	6.3	8,000	5.7	△511	△6.0
経常利益	8,807	6.6	8,200	5.9	△607	△6.9
親会社株主に帰属する純利益	5,332	4.0	5,500	3.9	167	3.1
海外売上高	21,522	16.0	23,000	16.4	1,478	6.9
1株当たり当期純利益	54.77円		56.49円		1.72円	3.1
ROA	3.7		3.8			
ROE	6.4		6.3			

## 2. 2022年3月期業績予想 セグメント別見通し

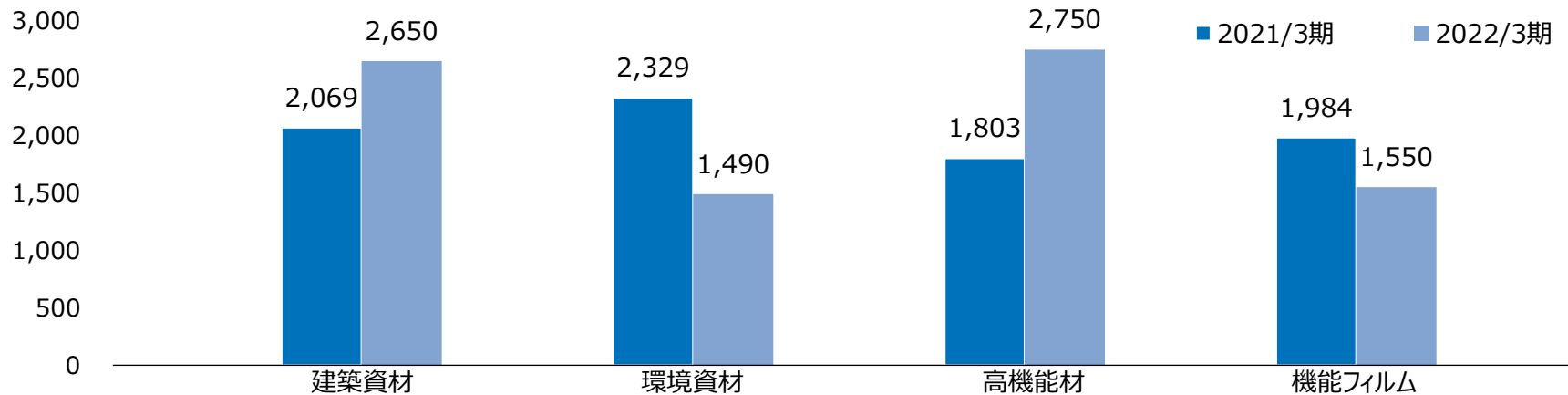
### セグメント別売上高

(百万円)



### セグメント別営業利益

(百万円)



※連結業績予想について直近に公表されている業績予想からの修正はありませんが、第2四半期までのセグメント別の売上・利益の当初期首計画からの進捗乖離を踏まえ、各セグメント別において当初期首計画からの修正を実施しております

## 2. 2022年3月期業績予想

# セグメント別見通し：建築資材セグメント

### 建築資材事業セグメント（住設建材事業・床・建装事業）

- 住設建材事業は、前年度の新設住宅着工戸数の落ち込みからは緩やかに回復するも、期首計画には至らず前年からも減収・減益見込み
- 床・建装事業は前年度、コロナ禍により延期・中止となったマンション改修工事需要の回復により増収、増益、期首計画についても達成見込み

（単位：百万円、％）

（事業）	2021年3月期	2022年3月期見通し			
	実績	見通し	対前年	期首年度計画	期首年度計画との差
売上					
建築資材事業計	42,147	44,200	2,053 (4.9%)	44,000	200
住設建材事業	26,216	26,000	△216 (△0.8%)	27,200	△1,200
床・建装事業	15,930	18,200	2,270 (14.2%)	16,800	1,400
営業利益					
建築資材事業計	2,069 (4.9%)	2,650 (6.0%)	581 (+28.1%)	2,470 (5.6%)	180
住設建材事業	1,237 (4.7%)	1,000 (3.8%)	△237 (△19.2%)	1,370 (5.0%)	△370
床・建装事業	832 (5.2%)	1,650 (9.1%)	818 (+98.3%)	1,100 (6.5%)	550

## 2. 2022年3月期業績予想

# セグメント別見通し：環境資材セグメント

### 環境資材事業セグメント（アグリ事業・インフラマテリアル事業）

- アグリ事業は、コロナ禍の影響により落ち込んでいた農業用ハウス関連資材の緩やかな受注回復を予想しており、期首計画には及ばないものの増収・増益見込み
- インフラマテリアル事業は、期首計画では災害復興需要や更生管事業が堅調に推移すると予想するも、大型案件の延期等により売上げ、営業利益共に期首計画未達、減収・減益見込み

（単位：百万円、%）

（事業）	2021年3月期	2022年3月期見通し			
	実績	見通し	対前年	期首 年度計画	期首年度計画 との差
売上					
環境資材事業計	54,930	53,400	△1,530 (△2.8%)	56,500	△3,100
アグリ事業	32,670	33,500	830 (+2.5%)	34,300	△800
インフラマテリアル事業	22,260	19,900	△2,360 (△10.6%)	22,200	△2,300
営業利益					
環境資材事業計	2,329 (4.2%)	1,490 (2.8%)	△839 (△36.0%)	2,040 (3.6%)	△550
アグリ事業	737 (2.3%)	800 (2.4%)	63 (+8.5%)	820 (2.4%)	△20
インフラマテリアル事業	1,592 (7.2%)	690 (3.5%)	△902 (△56.7%)	1,220 (5.5%)	△530

## 2. 2022年3月期業績予想

# セグメント別見通し：高機能材セグメント

### 高機能材事業セグメント

- 高機能材事業は、旺盛な半導体需要に牽引され半導体製造設備需要が引き続き堅調に推移するものと予想、売上は期首計画を上回り、増収を見込む。営業利益は販売量の増加及び、増産益の取り込みにより期首計画を大きく上回り増益見込み

(単位：百万円、%)

(事業)	2021年3月期	2022年3月期見通し			
	実績	見通し	対前年	期首 年度計画	期首年度計画 との差
売上					
高機能材事業計	17,478	21,200	3,722 (+21.3%)	18,000	3,200
営業利益					
高機能材事業計	1,803 (10.3%)	2,750 (13.0%)	947 (+52.5%)	1,670 (9.3%)	1,080

## 2. 2022年3月期業績予想

# セグメント別見通し：機能フィルムセグメント

### 機能フィルム事業セグメント（ボンセット事業、サンジップ事業）

- ボンセット事業は、北米市場の需要が引き続き堅調に推移するものと予想しており、売上は期首計画達成、増収を見込むも、営業利益は原材料及び物流費の高騰により、期首計画未達、減益見込み
- サンジップ事業は、ジッパーテープが引き続き、日本国内、アジア、欧米を中心に堅調に推移するものと予想しており、増収を見込むも期首計画にはわずかに未達見込み。営業利益は原材料及び物流費の高騰により、期首計画未達、減益見込み

(単位：百万円、%)

(事業)	2021年3月期	2022年3月期見通し			
	実績	見通し	対前年	期首年度計画	期首年度計画との差
機能フィルム事業計	19,464	21,200	1,736 (8.9%)	21,000	200
ボンセット事業	15,977	17,400	1,423 (8.9%)	17,100	300
サンジップ事業	3,487	3,800	313 (+9.0%)	3,900	△100
機能フィルム事業計	1,984 (10.2%)	1,550 (7.3%)	△434 (△21.9%)	1,750 (8.3%)	△200
ボンセット事業	1,529 (9.6%)	1,170 (6.7%)	△359 (△23.5%)	1,360 (8.0%)	△190
サンジップ事業	454 (13.0%)	380 (10.0%)	△74 (△16.3%)	390 (10.0%)	△10

## 2. 2022年3月期業績予想

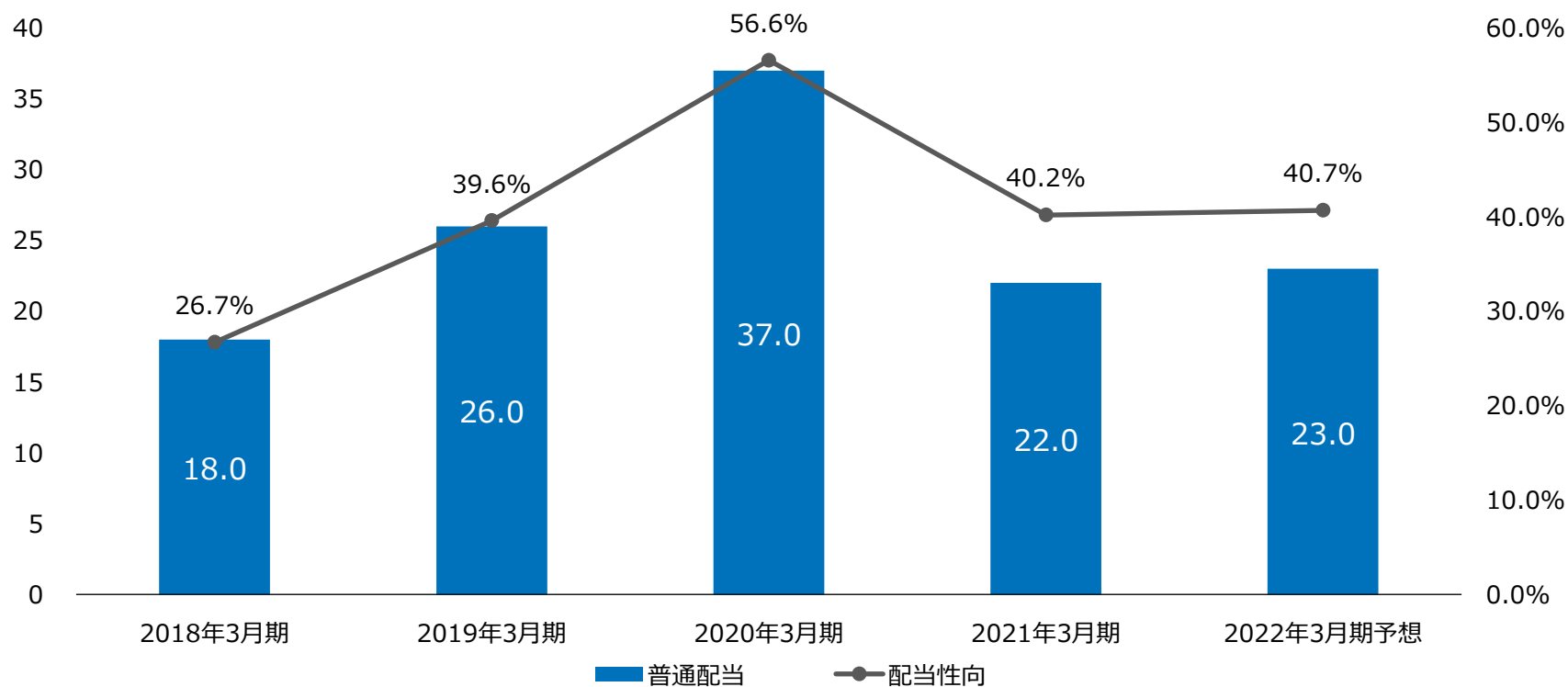
# 配当予想

### 配当推移

- 2021年3月期配当金については、1株につき22円を実施、2022年3月期末配当予想については1株につき23円を想定しております

(一株配当金額：円)

(配当性向)



(注) 配当性向は特殊損益を除いた場合の数値 (2020年3月期は記念配当10円を除いた27円で算出)

# メモ

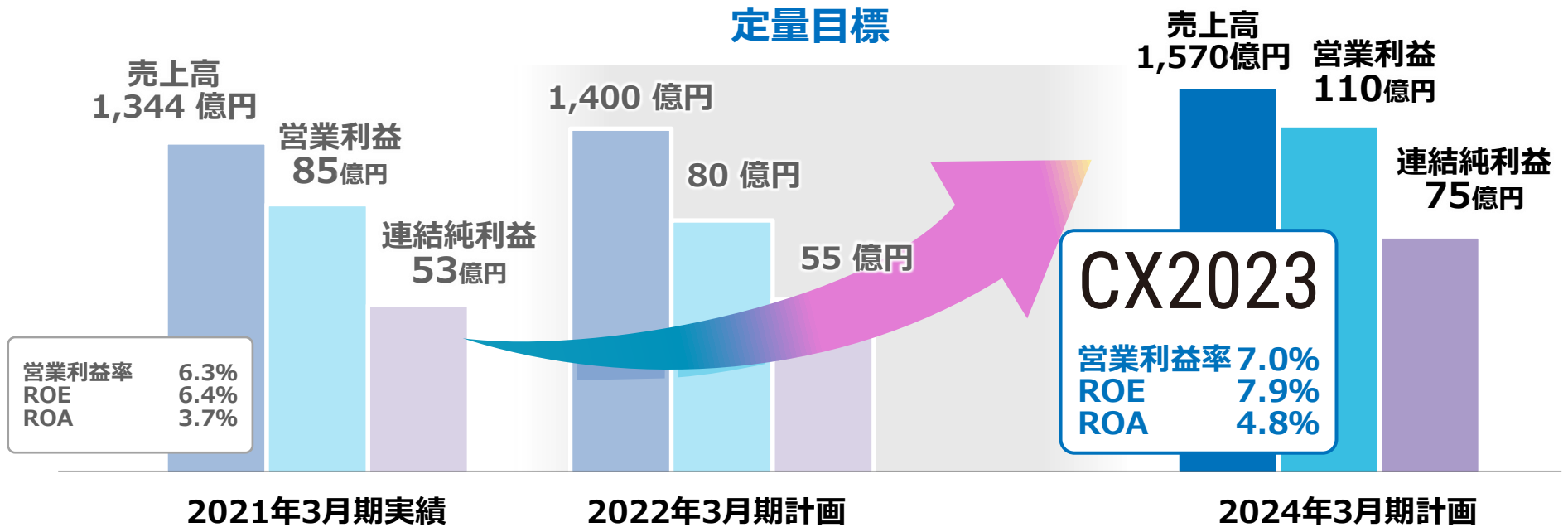
---



### 3. 中期経営計画の進捗状況

### 3-1. 中期経営計画概要

# CX2023 定量目標/6つの重点実施項目と成長原資/支援体制の新設



- 重点実施項目**
- |                  |                             |                   |
|------------------|-----------------------------|-------------------|
| <b>1</b> 社会課題の解決 | <b>2</b> 新事業・新製品・<br>新技術の獲得 | <b>3</b> ボーダレスの加速 |
| <b>4</b> デジタルの実装 | <b>5</b> グループ経営の<br>再整備     | <b>6</b> 経営基盤の進化  |

- 2つの成長原資**
- 1 330億円の投資枠を設定
  - 2 研究開発費総額を売上高比率2%以上に設定

- 2つの支援体制の新設**
- 1 デジタル戦略専門組織
  - 2 中計・マテリアリティ管理委員会

## 重点実施項目の取組みトピックス①

### 1 社会課題の解決



#### 新組織

「カーボンニュートラル推進グループ」

10月稼働

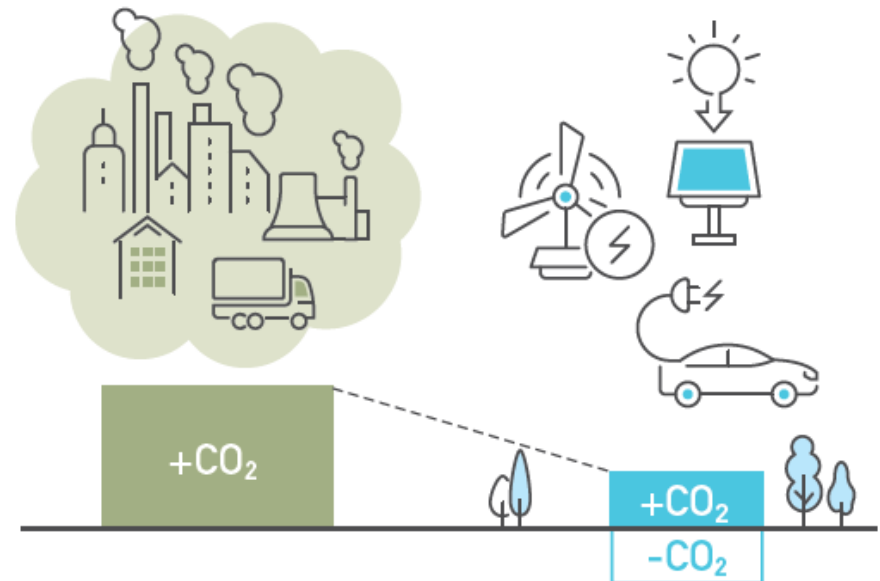
Mission: 2050年カーボンニュートラルの実現

当社は事業に伴うCO<sub>2</sub>排出量を2030年度までに2018年度比で30%削減するという目標を掲げております。

脱炭素対応および気候変動対応を中核としたグループ全体の環境シフトを実現するために、その戦略立案、対応策の推進およびそれらのマネジメントの役割を担います。

### その他の取組み状況

- 「CO<sub>2</sub>排出量削減」  
- 2023年度KPI目標を達成済(昨年度実績△17.2%)  
太陽光発電・再生エネ電力購入を計画し、  
更なる排出削減効果推進を図る。
- 「水辺のクリーンエイド活動」  
- 工場周辺の清掃や地域奉仕を中心に活動を実施



## 重点実施項目の取組みトピックス②

### 2 新事業・新製品・新技術の獲得

#### 新技術



セルロース（天然繊維）配合コンパウンド

5月31日ニュースリリース

容器包装リサイクル法で「紙」製と認められるセルロースコンパウンドの開発を進めています。

樹脂加工メーカー独自の特殊混練製法により、天然繊維であるセルロースを51%以上配合したオレフィン系樹脂のコンパウンドで、製品への「紙マーク」表記が可能になります。

#### 【ポイント】

- ・創立 100 年を超える樹脂加工メーカーが独自の特殊混練製法により開発
- ・天然繊維であるセルロースを 51%以上配合したオレフィン系樹脂のコンパウンド。紙表記が可能
- ・通常のオレフィン系樹脂と同等の物性をもち、かつ強度、耐熱性の点ではオレフィン系樹脂に勝る
- ・ニーズに合わせた配合や流動特性の調整も可能
- ・石油由来樹脂の使用量を低減することで CO2排出量削減に貢献
- ・売上は 3 年後に年間 3～5 億円を見込む



セルロースコンパウンド



新技術を活用したジッパーテープ  
(2021年度中に製品化予定)

## 重点実施項目の取組みトピックス③

### 4 デジタルの実装



新組織

「DX戦略推進部」

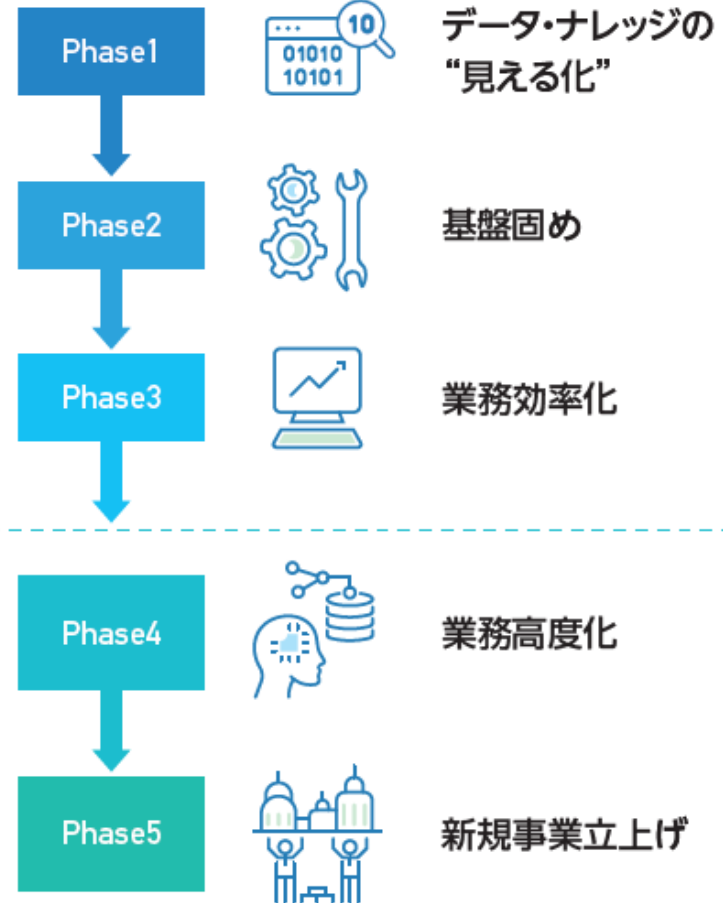
10月稼働

Mission: 企業の競争優位性を生み出す

当社グループ全体のDX推進を包括的な立場で指揮・監督し、全社DX戦略の企画・推進を担います。

部分的な業務効率化にとどまらず全社横断的な業務高度化に向けたデジタル技術の活用を加速させます。

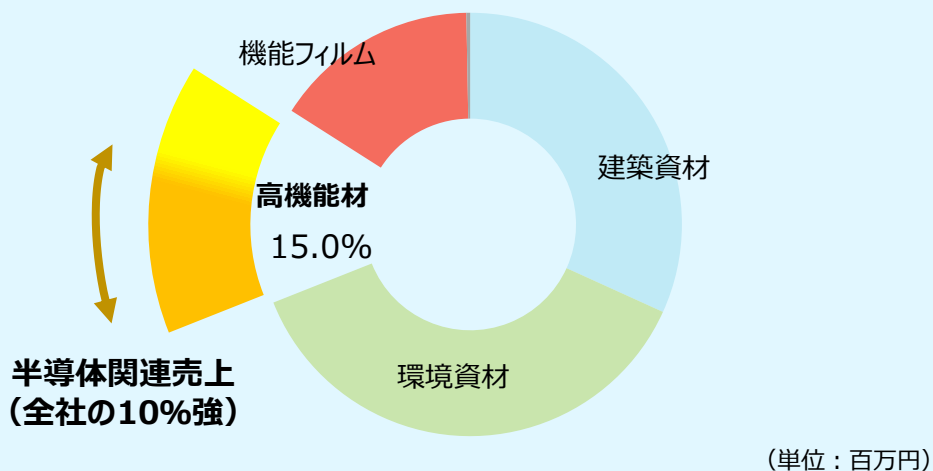
さらに、ビジネスプロセスの変革と新たなビジネスモデルの創出により、一層の競争力強化をもたらすDX化を実現させます。



### 3-3 事業トピックス

## ① 半導体関連事業の強化

タキロンシーアイグループ売上ポートフォリオにおける  
半導体関連事業の位置づけ（2022年3月第2四半期実績）



高機能材 セグメント	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 見通し
売上高	17,267	17,478	21,200
営業利益	1,313	1,803	2,750

- 2022年3月期第2四半期実績
  - ・営業利益は1,753百万円（全社に占める営業利益の割合36.6%）となり第2四半期過去最高営業利益の原動力となった。
- 2022年3月期見通し
  - ・売上高21,200百万円、営業利益2,750百万円は過去最高

### ▶ 成長エンジンとしてさらなる事業拡大へ

#### ■ 今後の展開

「半導体設備需要増に対応」

#### 【課題と取り組み目標】

- ①今年度より稼働開始の新設備の有効活用
- ②設備改造
- ③新規設備の導入
- ④新技術の開発
- ⑤海外販売網の拡充

#### ■ 伸ばすべき強み

（トップシェアメーカーとしての、品質と技術力）

- ・半導体製造装置向け材料として世界トップシェア
- ・難燃基準『FM4910規格』に適合
- ・顧客要望に応える高機能製品の豊富な品揃え
- ・強固な販売ネットワーク

### 3-3 事業トピックス

## ② 新規事業「循環適応型素材事業」

- 2021年5月1日、循環適応型素材事業推進部を設置しコンパウンドを手段とした循環型社会に資する事業を興す準備作業を開始。事業コンセプトと戦略を決定。
- コンパウンドに関する新展開に伴い（株）ヘキサケミカルとの資本提携（グループ化）に備えた準備行為については本年9月末に円満に解消、今後は友好的協業を継続



60%出資

新事業  
領域

マーベリックパートナーズ

循環適応型素材事業推進部

### 事業コンセプト

- プラスチックを巡る資源・環境両面の課題解決に、加工メーカーの視点から、安全で扱いやすく、循環利用に貢献する材料で応えます
- 豊かな循環経済を共に創ります

### 戦略

- 3Rを中心に環境関連をテーマとしたユーザソリューション型ビジネスの創設
- タキロンシーアイグループ内での環境関連テーマの実現

SDGs5つのゴールに関連したテーマを採択し製品開発にO A 機器、家電製品等で培ったマーベリックパートナーズ株式会社の樹脂コンパウンド配合設計技術を活用



具体的  
テーマ例



- R-PET,R-PC/ABS,R-HIPS,コンパウンド
- 容り法由来PO発泡製品(CNF活用)等

土木・建材製品への応用

# 3-4 タキロンシーアイグループのサステナビリティビジョン

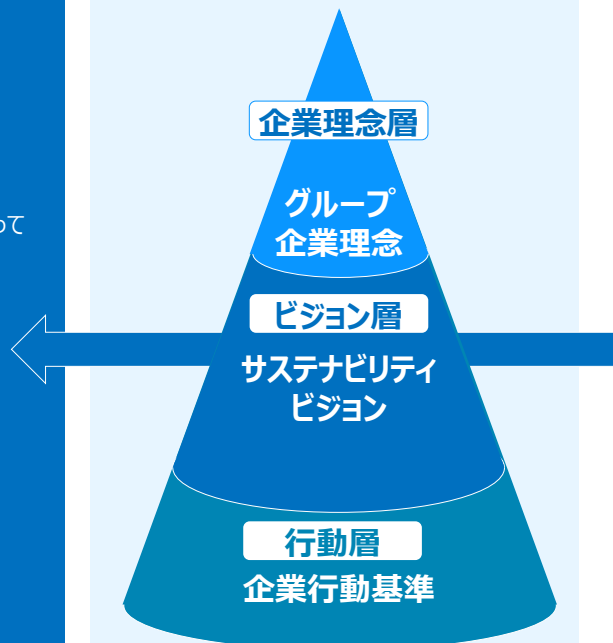
## タキロンシーアイグループのサステナビリティビジョン

Sustainability Vision

**今日を支える、明日を変える。**

タキロンシーアイグループは人々の今日の暮らしを支え、明日の暮らしを豊かで快適にするために自ら変革する勇気を持って人と地球と未来にやさしいものづくりに挑戦し続けます。

## サステナビリティ理念体系



## アウトカムを起点としたサステナビリティ設計

### 安全・安心

安心して暮らせる今日を支えるために、安全で信頼できる製品・サービスを安定的に提供し続ける企業

### 快適・心地よさ

明日の暮らしを豊かで快適に変えるために、技術とアイデアで時代が求める製品・サービスをつくりだす挑戦を行う企業



### レジリエンス

社会環境・状況の様々な変化に柔軟に適應するため、常に変革に挑戦し続ける企業

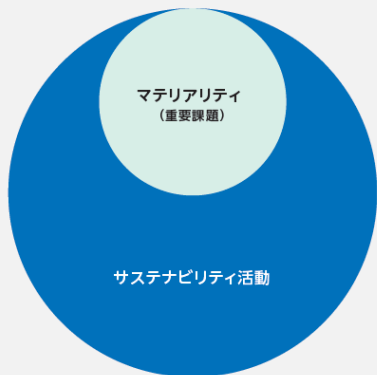
### 環境

常に地球環境保護をこころがけ、人と地球と未来にやさしいものづくりを行う企業

## サステナビリティビジョンに基づく具体的な取り組み

### マテリアリティ（重要課題）

1. 価値創造を支える企業風土の醸成
2. ポリマー加工技術の深化
3. ダイバーシティの推進
4. 充実人生 経営宣言
5. 海洋プラスチック問題への対応
6. CSR調達
7. 環境負荷の低減
8. 環境配慮型製品の拡大
9. コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント対応
10. コーポレート・ガバナンスの充実





# Appendix. 会社概要・当社の特長

# 1. 会社情報・株式情報 (2021年9月末現在)

## 会社情報 (2021年3月末現在)

商号	タキロンシーアイ株式会社
創立	大正8年(1919年)10月10日
設立	昭和10年(1935年)12月20日
本社住所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田三丁目1番3号 (ノースゲートビルディング)
電話	06-6453-3700
ウェブサイト	<a href="https://www.takiron-ci.co.jp">https://www.takiron-ci.co.jp</a>
資本金	15,189百万円
従業員数(連結)	3,299名

## 株式情報

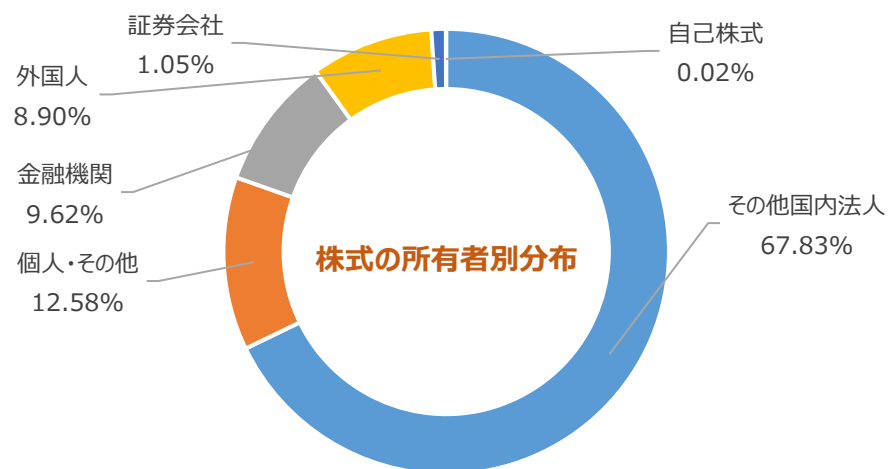
証券コード	4215
発行済株式数	97,500,000株
株主数	9,960名
上場証券取引所	東京 市場第一部
単元株式数	単元株式数100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

## 主要加入団体リスト (2021年7月末現在)

関西化学工業協会	JA包装園芸資材協会	日本プラスチック工業連盟
関西経済連合会	日本インテリア協会	日本プラスチック板協会
CLOMA	日本ビニル工業会	農業用フィルムリサイクル促進協会

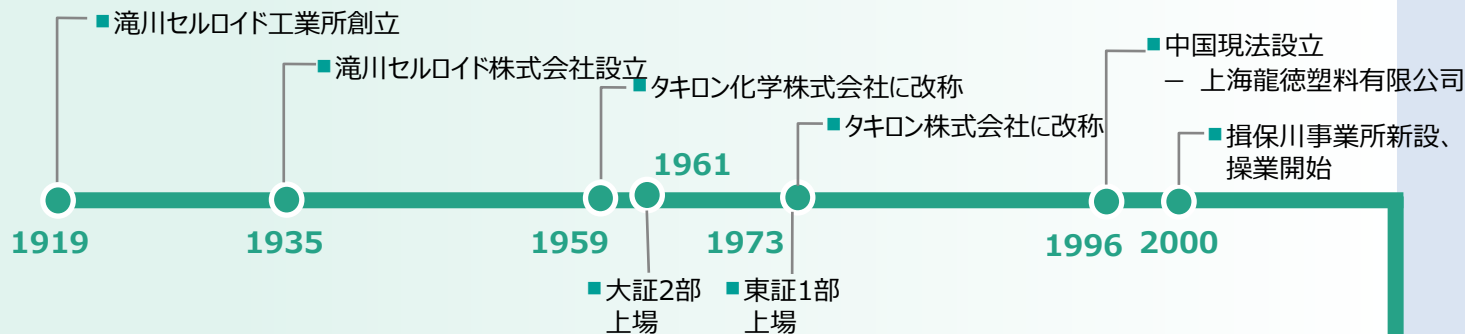
## 大株主

株主名	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	55.54%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5.60%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1.83%
積水樹脂株式会社	1.41%
株式会社カネカ	1.35%
東ソー株式会社	1.10%
タキロンシーアイ持株会	1.09%
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1.08%
渡辺パイプ株式会社	0.90%
RE FUND 107-CLIENT AC	0.66%



## 2. 会社沿革

### タキロン(株)

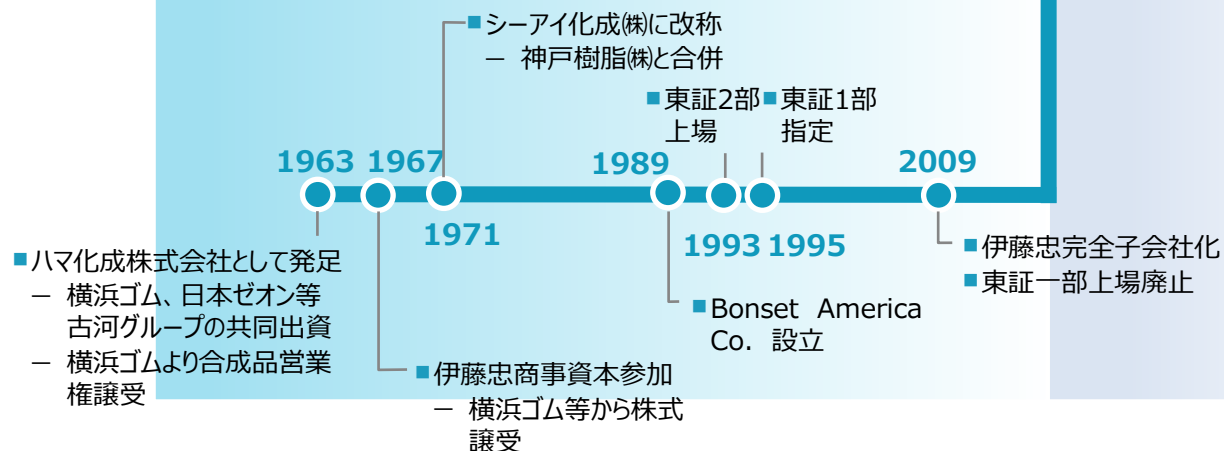


### タキロンシーアイ(株)

2017

- 経営統合
  - タキロンシーアイ株式会社と商号変更

### シーアイ化成(株)



# 3. 国内拠点

## ■ 国内製造拠点：25拠点



## 4. 海外拠点

### ■ 海外製造拠点：6拠点

BONLEX EUROPE  
[イタリア ヴェネト]



BONSET AMERICA  
[アメリカ ノースカロライナ]



上海桑普拉斯塑料  
[中国 上海]



上海希愛化成電子  
[中国 上海]



PT. TAKIRON INDONESIA [インドネシア スラバヤ]



BONSET LATIN AMERICA  
[ウルグアイ]

## 5. グループ概要

### タキロンシーアイグループ

	国内	海外
<b>建築資材事業</b>		
<b>住設資材事業部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三和サインワークス</li> <li>● タキロンシーアイプラス</li> </ul>	
<b>床・建装事業部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タキロンマテックス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BONLEX EUROPE</li> </ul>
<b>環境資材事業</b>		
<b>アグリ事業部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道サンプラス</li> <li>● ヨコビ</li> <li>● シーアイマテックス</li> <li>● シーアイアグロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PT.TAKIRON INDONESIA</li> </ul>
<b>インフラマテリアル事業部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ダイライト</li> <li>● タキロンシーアイシビル</li> </ul>	
<b>高機能材事業</b>		
<b>高機能材事業部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タキロンポリマー</li> <li>● CIKナノテック</li> <li>● タキロン・ローランド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上海希愛化成電子</li> </ul>
<b>機能フィルム事業</b>		
<b>ボンセット事業部</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボンパック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● BONSET AMERICA</li> <li>● BONSET LATIN AMERICA</li> </ul>
<b>サンジップ事業部</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上海桑普拉斯塑料</li> </ul>
<b>その他関係会社</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タキロンテック</li> <li>● タキロンシーアイ物流</li> <li>● ダイブラ・ウィンテス</li> <li>● マーベリックパートナーズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上海世愛化成貿易</li> </ul>

# 建築資材 事業

- 住設建材事業は、雨どい・排水ます等の水処理製品やポリカーボネート樹脂製高断熱中空パネル「ルメウォール」など、住宅から非住宅まで屋内への自然採光に幅広く使用される建材製品を扱っています。
- 床・建装事業は、プールサイドやマンションの廊下、階段などの安全を守る優れた防滑性能を有する床材と、インテリアや建築物の意匠性を高める化粧フィルムを扱っています。

## 住設建材事業

ポリカーボネート樹脂製  
高断熱中空パネル「ルメウォール」



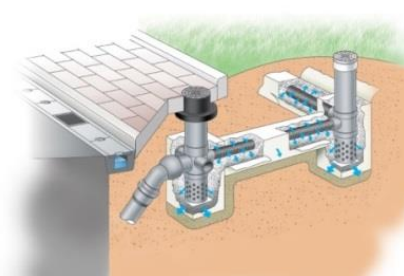
ポリカーボネート樹脂板



住宅資材（雨どい他）

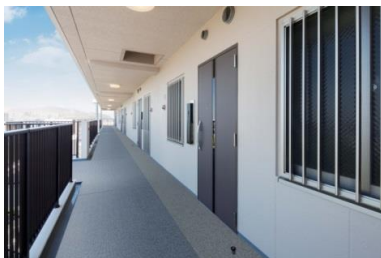


管工機材



## 床・建装事業

防滑性ビニル床シート



内外装用建装資材



樹脂製化粧材



## 主要事業の強み

- ポリカーボネートの成形・加工技術
- ポリカーボネート建材における国内随一の製造能力
- トップシェアを有するポリカーボネート採光建材、防滑性塩ビ床材
- 建装材へ機能性を付与する総合的開発力
- 海外生産拠点（BLX）によるグローバル展開

# 環境資材 事業

- 環境資材事業本部は、農産物栽培に最適環境を提案するアグリ事業と、安全安心な社会環境の整備を支えるインフラマテリアル事業で構成されています。
- アグリ事業は高機能農業用フィルムを中心に、農業発展に貢献しています。
- インフラマテリアル事業は防水・遮水シート、高密度ポリエチレン管、その他関連資材の製造から施工までの展開で社会インフラを支えています。

## アグリ事業

農業用フィルム



包装資材



灌水チューブ



## 主要事業の強み

- 業界シェア
- 生産技術力
- 営業体制・顧客サポート力
- 製販から設計・加工・施工までの対応力

## インフラマテリアル事業

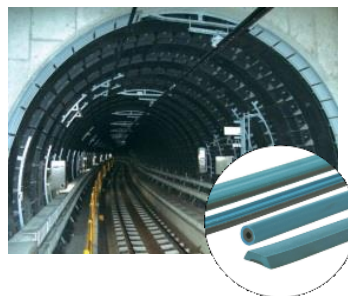
遮水シート



止水板



水膨張性止水材



高耐圧ポリエチレン管  
(取扱：関係会社)



大型ポリエチレン製樹脂タンク  
(取扱：関係会社)





- PVC、PC、PET等の汎用・機能樹脂板を扱うプレート事業
- マイクロモータを扱うモータ事業
- 超微粒子、エンブラ素材、アセテート板を扱う各グループ会社で構成
- 半導体製造設備など産業基盤を支えるものから、生活を豊かにするものまで幅広い分野に製品を提供しています。

# 高機能材 事業

## プレート事業

### 工業用プレート



### 高機能ポリカーボネートプレート



### 静電プレート



## モータ事業

### マイクロモータ



アセテート板  
(取扱：関係会社)  
用途：メガネフレーム



超微粒子マテリアル  
(取扱：関係会社)



濾過板・大型切削加工  
(取扱：関係会社)



## 主要事業の強み

- 業界で長きにわたり蓄積した技術力
- 顧客要望に応える高機能製品の豊富な品揃え
- 強固な販売ネットワーク
- 高い品質とブランド力

# 機能フィルム 事業

- 「ボンセット」は日本生まれのシュリンクフィルム（熱収縮フィルム）のブランドで各種素材の特性を活かし、ラベル用、キャップシール用、成形品用等様々な用途・内容物に用いられています。
- 「サンジップ」はプラスチックジッパーテープのブランドで食品分野をはじめ多様な分野で使用されています。

## ボンセット事業（熱収縮フィルム）

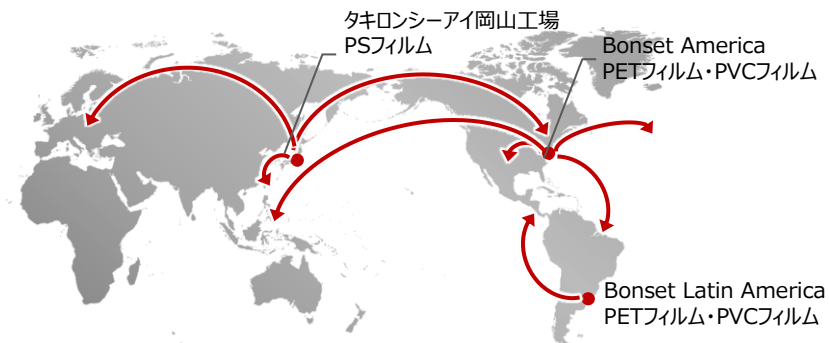
熱収縮フィルム  
用途：飲料用ラベル等



環境配慮型製品  
ボタニカルフィルム

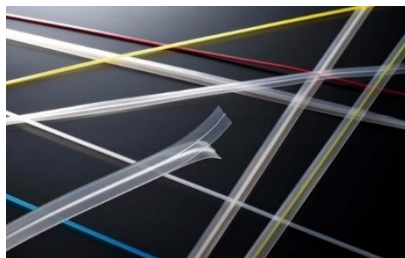


- 世界3極体制（日本・北米・南米）により世界中の需要に対応



## サンジップ事業（ジッパー）

ジッパーテープ  
用途：食品包装用パウチ等



環境配慮型製品  
セルロース配合ジッパー



## 主要事業の強み

- 長年蓄積された製造加工技術とknowhow
- 独自の配合技術で用途に合わせた多様な製品の製造
- 国内（平塚・岡山）と海外（中国・アメリカ・ウルグアイ）に生産拠点を有し、グローバル最適地生産販売の構築（BCPにも対応）
- 金型の内製化によるお客様の要望へのきめ細やかな対応（サンジップ）
- 生分解、モノマテリアル、バイオマスなど環境配慮型製品のラインナップと開発の拡大」

# 2022年3月期第2四半期セグメント別実績

(事業)	2021年3月期第2四半期			2022年3月期第2四半期				
	金額		構成比	金額		構成比	増減額	増減率
<b>売上</b>	(単位：百万円、%)							
売上計	64,175		100.0	70,417	100.0	6,241	9.7	
建築資材事業計	20,074		31.3	22,380	31.8	2,305	11.5	
住設建材事業	13,148		20.5	13,365	19.0	217	1.7	
床・建装事業	6,925		10.8	9,014	12.8	2,088	30.2	
環境資材事業計	25,514		39.8	26,194	37.2	679	2.7	
アグリ事業	15,540		24.2	16,752	23.8	1,211	7.8	
インフラマテリアル事業	9,974		15.6	9,441	13.4	△532	△5.3	
高機能材	8,102		12.6	10,589	15.0	2,487	30.7	
機能フィルム	10,339		16.1	11,049	15.7	710	6.9	
ボンセット	8,587		13.4	9,084	12.9	497	5.8	
サンジップ	1,752		2.7	1,965	2.8	213	12.2	
<b>営業利益</b>	(単位：百万円、%)							
営業利益計	3,675	5.7	100.0	4,792	6.8	1,117	30.4	
建築資材事業計	892	4.4	24.3	1,366	6.1	474	53.2	
住設建材事業	805	6.1	21.9	621	4.7	△183	△22.8	
床・建装事業	86	1.3	2.4	744	8.3	658	758.9	
環境資材事業計	763	3.0	20.8	671	2.6	△91	△12.0	
アグリ事業	262	1.7	7.1	414	2.5	151	57.8	
インフラマテリアル事業	501	5.0	13.7	257	2.7	△243	△48.6	
高機能材	640	7.9	17.4	1,753	16.6	1,113	173.9	
機能フィルム	1,195	11.6	32.5	1,096	9.9	△98	△8.3	
ボンセット	937	10.9	25.5	880	9.7	△56	△6.0	
サンジップ	258	14.8	7.0	216	11.0	△42	△16.3	

# 2022年3月期通期セグメント別見通し

(事業)	2021年3月期		2022年3月期見通し				
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
<b>売上</b>	(単位：百万円、%)						
売上計	134,470	100.0	140,000	100.0	5,529	4.1	
建築資材事業計	42,147	31.3	44,200	31.6	2,053	4.9	
住設建材事業	26,216	19.5	26,000	18.6	△216	△0.8	
床・建装事業	15,930	11.8	18,200	13.0	2,270	14.2	
環境資材事業計	54,930	40.9	53,400	38.2	△1,530	△2.8	
アグリ事業	32,670	24.3	33,500	24.0	830	2.5	
インフラマテリアル事業	22,260	16.6	19,900	14.2	△2,360	△10.6	
高機能材	17,478	13.0	21,200	15.1	3,722	21.3	
機能フィルム	19,464	14.5	21,200	15.1	1,736	8.9	
ボンセット	15,977	11.9	17,400	12.4	1,423	8.9	
サンジップ	3,487	2.6	3,800	2.7	313	9.0	
<b>営業利益</b>	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率	(単位：百万円、%)
営業利益計	8,511	6.3	8,000	5.7	△511	△6.0	
建築資材事業計	2,069	4.9	2,650	6.0	581	28.1	
住設建材事業	1,237	4.7	1,000	3.8	△237	△19.2	
床・建装事業	832	5.2	1,650	9.1	818	98.3	
環境資材事業計	2,329	4.2	1,490	2.8	△839	△36.0	
アグリ事業	737	2.3	800	2.4	63	8.5	
インフラマテリアル事業	1,592	7.2	690	3.5	△902	△56.7	
高機能材	1,803	10.3	2,750	13.0	947	52.5	
機能フィルム	1,984	10.2	1,550	7.3	△434	△21.9	
ボンセット	1,529	9.6	1,170	6.7	△359	△23.5	
サンジップ	454	13.0	380	10.0	△74	△16.3	

# IRに関するお問い合わせ先

タキロンシーアイ株式会社  
経営企画部  
コーポレートコミュニケーショングループ

.....

電話 : 03-6711-3718  
e-mail : ir@takiron-ci.co.jp

## 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。